

# センサーネットワークを活用した PHR と EHR の統合による 個別化糖尿病疾病管理プログラムの開発

松久 宗英

徳島大学 糖尿病臨床・研究開発センター

研究開発期間：フェーズ I：平成27年度

## 1 研究開発の目的

糖尿病発症早期からの生活習慣の改善実現のために、患者自身の病状に対する理解と、治療への動機付けは不可欠である。限られた診療時間や医療資源の中でも、患者自身が病状を把握でき、個別化した療養指導を最適に支援するツールやプログラムが求められる。そこでセンサーネットワークを活用した PHR(Personal Health Record)と、地域の医療機関の診療情報が蓄積されている EHR(Electronic Health Record)とを統合させた、個別化糖尿病疾病管理プログラムを開発し、ICTを活用した糖尿病患者の自己管理意識向上とアドヒアランス向上を目指す。

## 2 研究開発の概要



開発した PHR の糖尿病患者の理解度、動機づけにおける有用性を検証した上で (【フェーズ 1】)、その情報入出力の自動化を図るべく、(血糖自己測定、体重、血圧計などの) センサーネットワークの連携、EHR の連携を構築する (【フェーズ 2・H28 年度】)。最後に完成した PHR の有用性を検証し、患者だけでなく、医療者への診療支援ツールとしての有用性を検証し、事業化につなげる (【フェーズ 2・H29 年度】)

## 3 期待される研究開発成果及びその社会的意義

糖尿病患者対し自己疾病管理に必要なコンテンツを提供するサービスを実現することで、地方でも在宅医療・看護を含むすべての糖尿病患者の重症化予防と合併症を抑えることが可能となり、健康寿命の延伸に資すると考える。また、PHR、EHR を統合した医療ビッグデータの活用モデルを提示することで、より広範にわたる利活用促進に資すると考える。